

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点をただし、所見を伺うことです。



柏倉恵里子 議員

町内に防犯カメラの設置を 5
空家対策の進捗状況は 6～7



辻 紀樹 議員

今後の病院事業のあり方について 7～8



大谷 敏弥 議員

危機管理の対応は 8～9

定例会2日目、3人の議員より一般質問が行われました。
その内容を要約してお知らせします。

※全文は町ホームページからご覧になれます。

[町ホームページトップ](#) → [町議会](#) → [会議録](#)

町内に防犯カメラの設置を

(町長) 適切な判断のもと設置する



国縫漁港に設置の防犯カメラ

柏倉 近年、犯罪の証拠としてもよく使われている防犯カメラだが、長万部町にも是非設置をして欲しい。特に夜はほとんど人通りがなく、歩くのが怖いという声がある。また、中央跨線橋は幅が狭く、視界も遮られているので危険を感じる。新幹線工事が進むと多くの車輛も行き交うことから、活気が出てくるとともに危険もあると思う。町長の所信を伺う。

町長 防犯カメラの設置については、公共空間における犯罪を予防し、

被害を未然に防ぐとともに、迅速・適確な対応や犯罪の解決に役立つ有効な手段であると認識しているところだ。

一方で、防犯カメラの設置は、犯罪抑止効果がある反面、プライバシーの保護の観点から、撮影された画像の取扱いや設置場所の選定、設置後のカメラのメンテナンス、電気料金などの維持管理経費等の問題もあり、地域のみなさんのご理解・ご協力を得なければ進めることが難しいものと考えている。

本町においては、警察をはじめ、防犯協会や町民の皆さんのご尽力・ご協力のもと、犯罪発生率が低く抑えられておりますが、北海道新幹線の延伸に伴い、インパウンドの増加や、長万部駅を中心とした人の流れが大きくなることから、安全・安心

所管事務調査

(委員会が受け持つ調査内容)

第4回定例会(12月)までの各常任委員会、議会運営委員会の所管事務等調査事項は次のとおりです。

《総務常任委員会》

- ・国民健康保険事業
- ・地域会館
- ・学校教育施設

《産業建設常任委員会》

- ・林業振興
- ・町営住宅事業

《議会運営委員会》

- ・議会運営に関する事項及び議長の諮問に関する事項

で住みよい地域づくりに向けた取組のひとつとして、防犯カメラの設置についても検討したい。

柏倉 確かに、プライバシーの部分と予算の面もあるので非常に難しい問題だと思うが、これは設置していかないと、守られるものも守られない。特に温泉から元町、本町に渡ってくる中央跨線橋には是非設置して欲しい。

町長 2年後には通行止めになる場所だが、ご指摘のとおり、被害が起きる前に適切な判断をして設置したい。



— 柏倉 恵里子 議員 —

空家対策の進捗状況は

(町長) これからアンケート調査を行う

柏倉 平成30年第2回定例会において質問してから2年が経過した。

当時は調査が終わった段階であり、これから関係各課で合意できる庁舎内会議を開催し、各種の調査を進めないといけない状況になっており、その体制づくりをするとの答弁だった。また、アンケートによる意向調査を行うとも答弁している。

アンケート結果から見えた課題と、町の対策を伺う。あわせて空家対策計画はどこまで進んでいるか。

町長 現在把握している空家は365軒で、うち所有者が特定されている件数は295軒。空家等は個人の財産であり、所有者等が適切に維持管理すべきものだが、現状では放置された空家等の老朽化が進行し、周囲へ悪影響を及ぼしていることを所有者等が理解して



倒壊の危険がある建物

いない場合や、相続等により所有者等が町内に在住しておらず、現状を把握していない場合もある。

空家の状況や所有者の意向を把握するためのアンケートによる意向調査については、令和元年度内に発送する目標で進めていたが、現在、まだアンケート調査の内容や発送先などの精査を進めている段階で、今後速やかに実施していきたい。空家等対策計画については、アンケートによる意向調査の結果などを参考にしながら、計画の策

定に向けた取組を進めていく。

また、特に適切な管理を行われずに放置されている空家については、周辺の生活環境に悪影響を及ぼす恐れがあるので、所有者に対しての適切な管理を要請していく。

柏倉 2年経つても全く進んでいない状況だ。アンケートによる意向調査はいつ頃を目標にするのか。

町長 1日も早く関係住民に出したいが、地元にはいない所有者が多くて住所の検索作業で遅れている。もう少し時間がかかる。

柏倉 関係機関での庁舎内会議は。

町長 アンケート調査をしておらず、協議会を立ち上げても提案する材料が揃っていない。

柏倉 当時、392軒ある空家のうち、290軒をデータベース化した

という答弁だった。残りの分はどうなったか。また、どの様な項目をデータベース化しているのか。

町民課長 残りの空家も全部調査は終わっており、すでに更地になっている、重複している、倉庫と家屋が別々になっている等を精査した結果、365軒の空家軒数となり、全てのデータベース化ができた。

情報としては、建築物の用途、構造、階数、外壁、屋根、窓ガラス、庭のゴミ、草木、電気メーター等の項目について入力している。

柏倉 どの町内も非常に困っている。防犯上もあまりよくないのでぜひ進めて欲しい。

また、これから長万部町で働く人の受け皿としても、家がないことには働く人も来てくれない。今年コロナが流行し在宅ワークが広がった。人口

密集地にいなくても北海道に移住した企業もある。そのときに長万部町を選んでもらえるような魅力ある発信をしていかなければならない。新幹線駅ができて、通り過ぎるだけの町になってしまうのではなく、ここに残ってくれるような方にも、空家の活用をしたい。あるいは町で買取り、企業誘致をするというような考えを持つてもいいのでは。

町長 どの空家も、買い取っただけでは済まない。リフォームして住居として提供できるようにするまで、1棟に1000万とか1500万という金額がかかる。予算をかけてやるのは難しい。



— 辻 紀樹 議員 —

今後の病院事業のあり方について

(町長) 病院建設には

6年から7年程度の期間が必要

辻 病院の運営については、平成28・29年度に副町長を中心とした庁舎内検討会議を行い、翌年には町民も加えた「長万部町立病院事業検討協議会」を設置し、平成31年3月に基本構想が示されている。

その内容は、建物の老朽化が進み補修改築には多額の費用が見込まれる事や、海岸に近く防災上の問題も指摘されている。また、6月8日開催の全員協議会では、国有地取得要望書を提出したいとの提案があり、建設に向けた考えが示されたと思う。このことを踏まえ、次の点について町長の考えを伺う。

- 1、開設までの事業期間
- 2、町民への説明会が必要と考えるが、実施方法などは。
- 3、庁舎内検討会議、長万部町立病院事業検討

協議会は今後も開催されるのか。

4、本町は高齢化に伴い、高齢世帯・独居世帯が多くなり、町立病院を核とした医療の充実と社会福祉のさらなる推進が求められると考え、**町長** 1点目の開設までの事業期間については、一般的な病院の建設期間は、最初に第4次長万部町まちづくり総合計画に移転建替を記述し、北渡島檜山圏地域医療構想調整会議に病院機能と病床数の提案、道と振興局と調整後に基本構想の作成、用地の取得、議会説明、町民説明会、道の事業認定を経て基本設計、実施設計、建替工事となることから、6年から7年程度の期間が必要となる。

2点目の町民への説明会については、議会への説明後に町民への説明会

を開催するが、実施方法は今後検討する。

3点目の庁舎内検討会議と事業検討協議会については、新たな形で検討協議会等を開催する事は必要と考えている。

4点目の構想については、来年度以降に国と道の医療構想に沿った形での新しい改革プランの策定が必要となる。現在はまだ指針が示されていないが、その中で町に唯一の病院としての役割、町民への医療提供や地域包括ケアシステムの中での医療について中心的な役割



老朽化が進む町立病院

を担う医療機関を目指す。

辻 1点目の事業期間についてだが、病院施設は老朽化し防災の問題もある。また、年間数億円の赤字が発生するということを考えると、災害が起きる前にできるだけ速やかに事業を進めることはできないか。

町長 町立病院は津波対策、防災面を一番に考えるのが基本となる。そこで、町内で一番高台にあり津波の浸水区域にならない国有地を取得すべく話を進めている。

様々な事務作業があるため、最終的に6、7年はかかるとの見通しだ。
辻 3点目、新たな形での検討会の設置はいつ頃か。

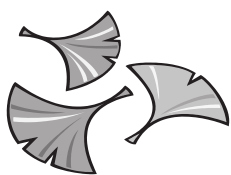
町長 まだ先の話なので仮定の話は控えたい。

辻 協議会の検討内容は、建設の規模や、病院の運営方法などが中心議題となるのか。

町長 建設までの様々な仮定の話が組み込まれてくると思うので、最終的に決定するまでのプロセスの中の大きな枠組みの協議になるかと思う。

辻 4点目、第4次総合まちづくり計画の中で、町立病院を核とした福祉政策の構想はどう考えるか。

町長 長万部町の人口形態から見て、高齢者社会の40%台の突入ということがもう目に見えてるわけだから、やっぱり福祉と地域包括ケアも含めた問題も取扱いながら、どういう形態の病院でどんな規模になるかということも話の中心になってくるのは間違いないと思う。



— 大谷 敏弥 議員 —

危機管理の対応は

(町長) 避難路の指定は現場を見たとうえで検討する

大谷 最近、地震の報道が目につく。いっどこで発生するかわからない大地震。先の新聞に標高5メートル以下で海岸から700メートル以内の地域に、建物の流出や倒壊被害がある町村に長万部町役場も明記されていた。被害時に司令塔となる庁舎が津波にのみ込まれば全ての機能が失われ、救助・復興の全てが遅れかねない。また、消防署、病院、小学校も海岸に近く、特に小学校は高台まで大変距離があり、その対応はどうか。次の点について伺う。

役割で、「津波・高潮ハザードマップ」の見直しを各市町村も検討しているようだ。今は津波の高さは、想定外を想定した策定も考慮しなければと思うが、町長の所信を伺う。

2点目。 避難路の整備は日頃からされているか。(例、苗畑道路、旧デッキ力道、トド山通路等)

町長 役場庁舎が被災した場合の災害対策本部については、長万部町地域防災計画において、被災を逃れた他の公共施設に設置することとされており、学習文化センターを想定している。また、消防署や病院、小学校は海岸沿いに位置しているが、ふれあい大橋を渡った地点は、津波の予想浸水区域から外れていることから、小学校などからは最短の避難ルートになるものと考えている。

3点目。 町民の生命、財産を守るのは自治体の

重要な書類等の管理は、クラウド型システムの活用により、災害発生時のリスクの低減を図っており、



津波ハザードマップ (抜粋)

住民基本台帳や印鑑台帳、課税台帳、選挙人名簿などの基幹系システムについては、町外の業者においてデータのバックアップを行っている。また、戸籍関係のデータについては、庁内OA室に設置するサーバーでの正副バックアップ等に加え、副本を総務省管轄のバックアップセンターに随時更新をしており、役場庁舎が被災した場合でもデータの

復元が可能な体制になっている。

2点目の避難路の整備については、既存の避難路の使用を基本とし、夏場における草刈や冬期間においては随時除雪を行っている、避難路の確保に努めている。

3点目のハザードマップについては、今年度、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る想定地震津波データが国から北海道へ提供され、

現在、北海道において津波浸水予想図の精査が行われており、今年度末には各市町村へデータが提供される予定となっている。本町においては、北海道から提供されたデータを元に令和3年度以降の早い時期に、最大級

の津波を想定した新たなハザードマップを作成し、町民のみなさんに周知を図りたいと考えている。

大谷 2点目について既存の避難路を使用することだが、津波発生時、大抵の人は避難するためとつさに車を使用すると思う。だとすると、既存の避難路に集中して渋滞し、混乱が起きかねない。また、3・4・3道路(※ふれあい大橋から富野公園へ向かう道路)は信号もあり、渋滞になる可能性が大きい。その道路の途中に高台が2カ所あり、そこへつながる通路がある(トド山通路、苗畑通路)。新しく避難路を作るとコストがかかるが、この通路を使用することをロードマップに示し、避難路として町民に認識してもらえば少しでも混雑を解消できると思うが。

町長 トド山斜面は土

砂災害警戒区域になっており、避難路を設定することは無理である。また、苗畑の道は道路として認定していない。しかし、緊急時にはどこの民地の通路だろうと通れないことはないだろうが、やはり町が避難路として指定するには、通っても安全だというきちんとした根拠が必要である。

災害の状況にもよるが、車を使って避難する事態が起きる可能性は十分あるので、それも想定しながら防災訓練をしなければいけない。避難路の指定は、現場を見ただうで検討したい。



議会の会議録はホームページでご覧になれます

長万部町ホームページトップ → 町議会 → 会議録 からお入りください。

長万部町役場ホームページ

<http://www.town.oshamambe.lg.jp>